

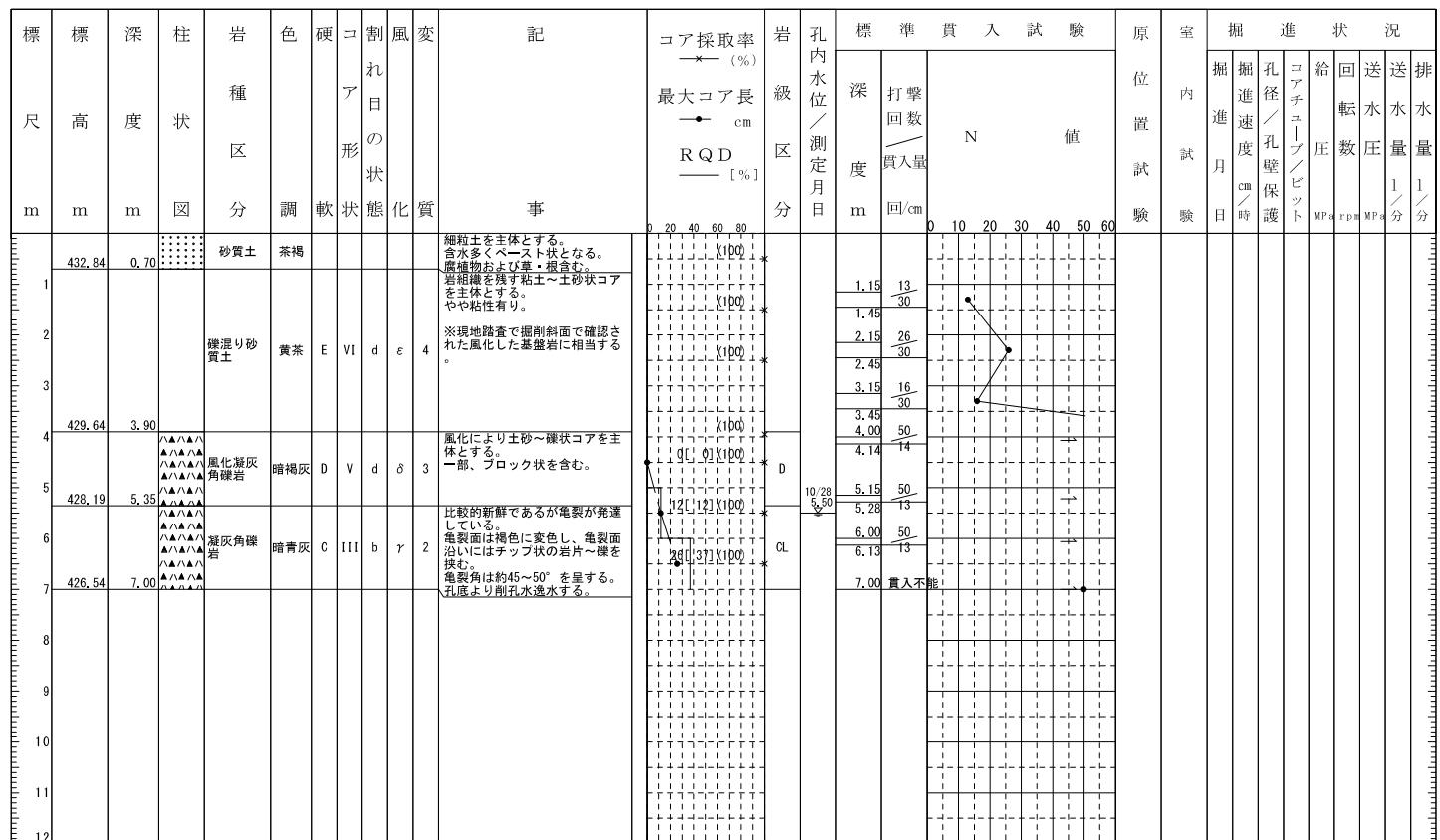
## ボーリング柱状図

## 調査名 平成28年度 大畔谷川通常砂防事業に伴う業務委託

ボーリングNo.	5	2	3	3	0	1	3	0	1	3	0
----------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

シート No.

ボーリング名	Bor No.3(No.2+16.0 R-19.8)	調査位置	広島県府中市上下町				北緯	34° 41' 59.1000"
発注機関	広島県東部建設事務所				調査期間	平成28年10月27日～平成28年10月27日		東経 133° 07' 33.3000"
調査業者名				主任技師			現代理人	コア鑑定者
孔口標高	GH 433.54m	角度	180° 上 下 0°	方位 90° 0°	0北 Z0 西 180° 南	地盤勾配 鉛直 90°	使用機種 試錐機 エンジン	ハンマ一落下用具 半自動型 東邦製D-0型 ヤンマーF10型 ポンプ 東邦製BG-3型
総掘進長	7.00m							



< 凡例 > 二项系数分配定理

コア被軟区分判定表	
	硬 軟 区 分
A	極硬、ハンマーで容易に割れない。
B	硬、ハンマーで金属音。
C	中硬、ハンマーで容易に割れる。
D	軟、ハンマーでボロボロに碎ける。
E	極軟、マサ状、粘土状。

四九四六六

記号	風化の程度
$\alpha$	非常に新鮮である。
$\beta$	新鮮である。層理面、劈開面に沿ってわずかに変色より割れ易い。
$\gamma$	弱風化している。層理面、劈開面に沿て風化している。
$\delta$	風化している。岩芯まで風化している。ハンマーで簡単に崩せる。
$\varepsilon$	強風化している。褐色化し、指先で簡単に崩すことができる。

高醫五公亭

記号	変質区分	変質状況	
		肉眼的	顕微鏡的
1	非変質	肉眼的に変質鉱物が認められないもの。	
2	弱変質	原岩組織を完全に残し、変質程度が低いもの。 または、非変質部の割合が肉眼で50%以上のもの。	
3	中変質	肉眼で変質が進んでいると判断できるが原岩組織を明らかに残す。 または、非変質部を残すものおよび継続変質部。	
4	強変質	構成鉱物、岩片等変質鉱物で完全に置換され、原岩組織を全くほとんど残さないもの。	

### ヨニア割れ目状態判定表

コア削れ目状態判定表	
記号	割れ目状態区分
a	密着している。あるいは分離しているが割れ目沿いの風化・変質は認められない。
b	割れ目沿いの風化・変質は認められるが、岩片はほとんど風化・変質していない。
c	割れ目沿いの風化・変質は認められ軟質となっている。
d	割れ目として認識できない角礫状・砂状・粘土状コア。

## コア形状区分判定表

記号	模式図	コア形状
1		長さが50cm以上の棒状コア。
2		長さが50~15cmの棒状コア。
3		長さが15~5cmの棒状~片状コア。
4		長さが5cm以下の棒状~片状コアでかつコアの外周の一部が認められるもの。
5		主として角礫状のもの。
6		主として砂状のもの。
7		主として粘土状のもの。
8		コアの採取が出来ないもの。スライムも含む。(記事欄に理由を書く)

借 者